

鎌倉古道を歩く その6 ^{ゆぎょうじ} 遊行寺 クラブはんどれっど歴史散策 参加6名 2019.3.20

鎌倉古道を歩いて、とうとう藤沢宿まで、お寺や神社が宿の中心的な役割で、門前は江戸時代に東海道の往来や大山参詣、江の島への物見遊山でたいそう賑わいを見せていたという。時宗総本山遊行寺は約700年前に、鎌倉幕府の御家人・俣野氏4代目の呑海（どんかい）が開山、宗祖一遍上人は「念仏札の賦算」を通じ、南無阿弥陀仏と「踊り念仏」を通して人々と念仏の歓びを分かち合ったといわれている、境内にある「小栗判官と照手姫」の悲恋の墓にも手を合わせた。

春の陽気にさそわれ、俣野別邸・庭園を訪れ、コブシ、カンヒザクラ、河津桜、トサミズキ、ウメモドキ、椿、あせび、菜の花、クリスマスローズなどの春の草木を愛で、まぶしい陽光のなかでの酒宴となりました。



上左：東海道随一と謳われる遊行寺の木造本堂、上右：山門には時宗総本山遊行寺とある
上中：遊行寺・中雀門（重文）は境内最古の木造建築、下左：俣野別邸庭園・芝生広場前の菜の花
下中：芝生広場から見たサクラと森、下右：ハンギングフラワー